

奥秩父 荒川水系 滝川 豆焼沢

2015年9月19日(土)～20日(日)

メンバー：池田T (リーダー) ヤマメ(食料)、花里、佐藤Y

豆焼沢の見どころは終盤のスタレ状50m滝。他では中々見られない風景である。他にも気分良く直登できる小滝は多いが、ある程度は岩登りに慣れている必要がある。真夏に行けばシャワークライミングが楽しめると思う。泳ぎの必要は特になし。

9/19(土) 晴れのち曇り

当日の朝に浜松を出発。雁坂トンネル（7/1～11/30の間は通行料が無料！往復で1460円節約）を抜けて2つ目の橋（豆焼橋）を渡ったらすぐに左の脇道に入る。「出会いの丘」にて出発の準備。無人の他県ナンバーの車が1台だけ停まっていたが、沢の中では誰にも会わなかった。



白い建物にトイレ・登山届BOXあり。

ワサビ谷に架かる橋（上の写真の真ん中左）を渡り、ヘリポート脇から山の斜面脇に入っていく。今回はのんびり山行で無難に行きたかったので、前半核心部のゴルジュを避けるために「トオの滝」まで作業道を歩くことにした。山に入ると林道のような広い道に導かれ、どんどん進んでいったら崖になって道が終わってしまった。崖を少し降りて道を探したがそれらしい踏み跡も無い。仕方ないので少し戻ってから急な斜面をどんどん登って行ったら明瞭な作業道が見つかった。確認のためにその道に戻る方向に歩いて行ったら、ヘリポート脇から広い道に入ってすぐの所に降り立った。つまり、広い道から作業道の登り口

を見落としていたのだ。右の斜面を注視して歩くべきだった。ここで30分弱のロス。



ブナに囲まれた作業道を歩く

作業道を1時間ほど歩いてトオの滝の前に出た。高さ約5mの滝が2段になっている。滝に取り付くためには腰ぐらまで水に浸かる必要がある。登りが厳しそうだったのでまずは佐藤が空身で登って支点を確保。続いて池田が登った。後の二人は右岸を巻いてしまった・・。



トオの滝の下段を登る佐藤。上段は下段より易しい。

トオの滝を越えるとしばらくは小滝が続く。5m程度の滝もあるが直登可能。



登攀中の花里。



2段8mの滝。左側のルンゼで巻いた。

さらに小滝を越えて進んでいくと右岸に台地があったので幕営用のタープを張った。



快適な一夜を過ごした幕営地

<タイム>

出会いの丘10:25～作業道～トオの滝12:05～12:35－2段8m滝14:20－幕営地15:10

9/20(日) 曇り時々晴れ

出発してすぐに5m程の滝、さらに連瀑帯を越えていくと4段50mの大滝が登場した。かなりの迫力である。

ここは少し戻って右岸から高巻いた。踏み跡はある。



大滝の前でポーズをとるヤマメ

大滝の高巻きを完了して沢に降りるとまもなく2段8mの滝。これも直登は無理なので少し戻って今度は左岸の斜面から高巻きに入った。この高巻きが一番時間を要した。(約30分)
高巻きを完了するとやがてスタレ状のナメ滝が見られるようになる。だんだん癒しモードになってきた。



足掛かりはあるが滑り易いので慎重に登る。

小滝とナメをどんどん越えていくと遂に豆焼沢のハイライト、両門の滝へ。



左は2段15m滝。右が本流のスグレ状50m滝。

スグレ状50m滝は序盤の傾斜が比較的急である。途中に傾斜が緩くなる所があるので一息つくことが

出来る。楽しみながら、そして慎重にゆっくり登る。



ここはスダレ状50mの中間あたり。傾斜は緩く、癒しの空間。

終盤になると急な小滝が連続する。いずれも階段状なので直登できる。ただし水は冷たく、シャワーライミングはちょっとキツイ。



ゴルジュ状の小滝。水流の中に足場がある。

まだまだ急な滝が続いているなーと前方を見ていたら思ったらランニングウエアの人がいた。そんな恰好で何でこんな所に？と思ったら、そこは登山道だった。
水流はまだまだ続いているが、計画通りここで遡行終了とした。水流の先には「昇竜の滝」があった。

雁坂小屋への登山道を歩いているとゼッケンを付けたトレイルランナーに何人もすれ違った。つかまえて聞いてみると甲府から埼玉県の川越までの153kmを駆け抜けるという。「雁坂峠越え秩父往還レース」なるものが開催されているらしい。



レースのエイドステーション。今ここにいるのは上位グループの人たち。

休憩後、黒岩尾根を下って行く。ここから豆焼橋までは約8kmと長い道のり。そこを続々とトレイルランナーが登ってくる。甲府からスタートしたと言っていたが埼玉側から登って来るのは何故？と思い、つかまえて聞いてみると雁坂トンネルの避難坑を通り抜けてきたという。つまり一旦埼玉側に抜けてから、雁坂峠に向かって登ってきているのだ。おそらく山梨側の登山道を使うことに何らかの問題があったと想像する。とは言え「雁坂峠越え」なのだから山岳ルートは必要なだろう。



奥秩父の森を急ぐ参加者たち。

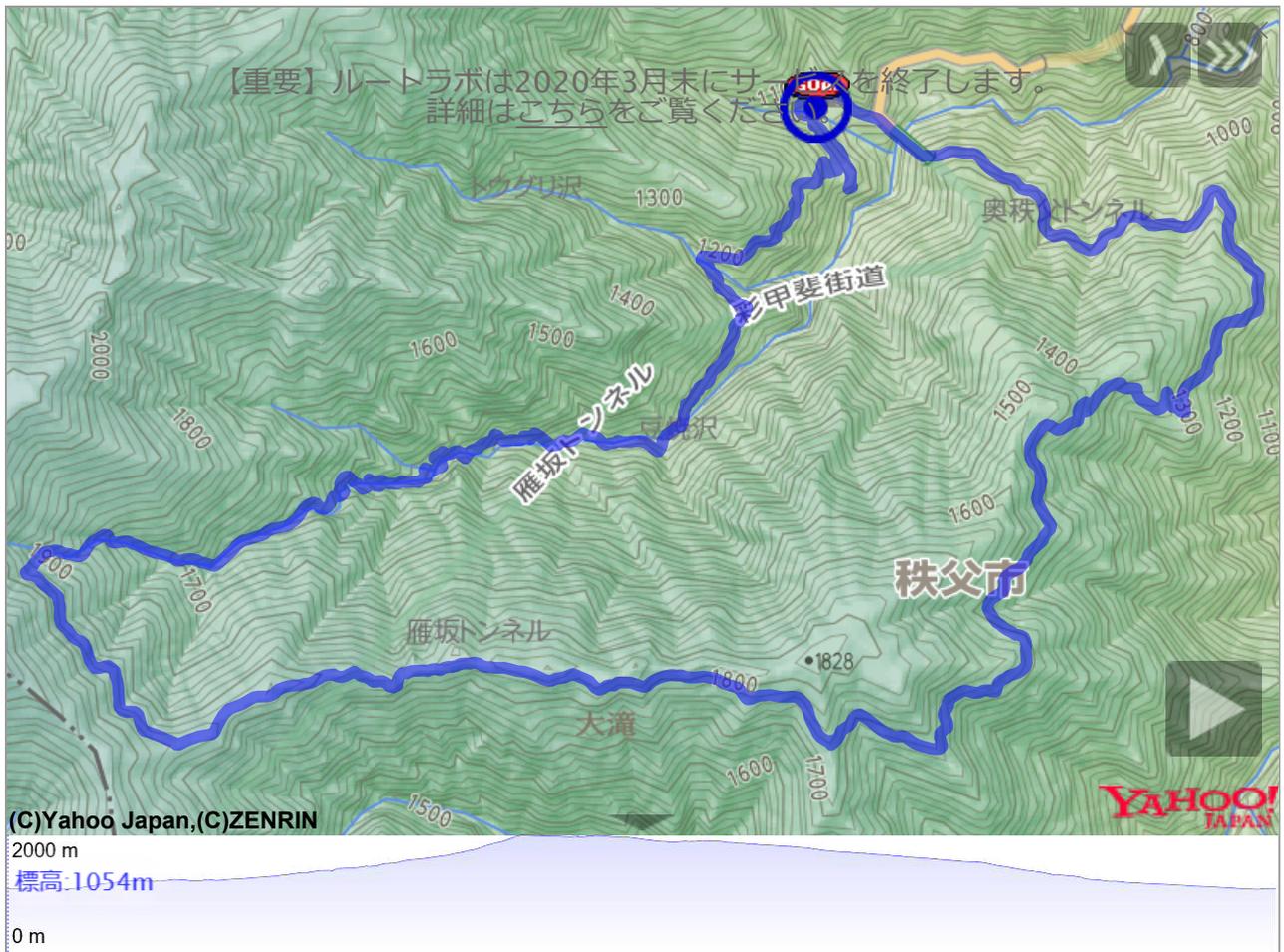
200人近くのランナーとすれ違ったが、「登山者優先」の注意事項があるのだろう。皆が道を譲ってくれる。
これは最初にすれ違ったトップグループの人も同じだった。皆マナーは良い。
それにしても153kmはすごいチャレンジだ。年齢層は幅広く、60代とみられる人も少なくなかった。
自分も癒し山行だけでなく、チャレンジ山行も時にはやらなければと思った。



長い下りを終えてやっと豆焼橋に出た。

<タイム>

起床5:00～出発7:00－大滝7:50－両門の滝9:35－登山道11:20－雁坂小屋12:10～
12:30－豆焼橋15:35－出会いの丘15:45



以上